

北東アジア交流

北東アジアと鳥取県の交流をテーマとするシンポジウムが境港市で開かれた。日本海沿岸の地方紙十社を中心とする実行委員会が開催し、山陰と北東アジアの交流拠

点である鳥取県西部から積極的な提言が行われた。経済のグローバル化が進むなかで中国の経済成長が著しい。北東アジア地域と山陰の関係を考えるとき、特に中国の存在感が大きくなっている。中国の経済発展を中心に北東アジアをめぐる環境も変化しつつある。

中心とする中海圏域は、山陰で唯一FAZ(輸入促進地域)に指定され、韓国の釜山や中国・大連などを結ぶ定期貨物船が行き交う。ソウル便が就航する米子空港は山陰ではただひとつ国際定期空路を持つ空の玄関口である。こうした空と海のアクセスの利用は順調に伸びている。

成したほか、コンテナターミナルやクレーン設備なども整備された。空路に目を向けると、米子空港のソウル利用者が増え、三年を経過した今年六月、十万人を達成した。最近では「冬のソナタ」による韓国ブームも手伝って、搭乗券も手に入りにくい状況という。

論説

中海圏の連携で未来を開く

境港市と米子市を中心とする鳥取県西部は、対岸交流に向けて空と海の窓口となっている。境港を

中心とする中海圏域は、山陰で唯一FAZ(輸入促進地域)に指定され、韓国の釜山や中国・大連などを結ぶ定期貨物船が行き交う。

ソウル便が就航する米子空港は山陰ではただひとつ国際定期空路を持つ空の玄関口である。こうした空と海のアクセスの利用は順調に伸びている。

鳥取県では行政が中心となって幅広い分野で北東アジア交流を重ねてきた。中でも韓国・江原道や中国・吉林省とは息の長い友好交流の実績がある。これらは文化芸術やスポーツ、教育など草の根交流が中心であり、経済的な関心とは距離を置いてきた。

境港の輸出入合わせた昨年の貨物取扱量は百九十万ト。一九九五年にFAZに指定された後、貨物の目標取扱量を達成したのは、全国二十二の指定地域のうち川崎と境港だけである。

こうした実績を背景に境港の港湾インフラの整備が進む。大型貨物船が入港できる五万ト岸壁が完

日本海を挟んだ人とモノの流れが盛んになりつつある。それを需要面で支えるのが、鳥根県東部との連携である。

しかし今後は、経済交流へウェイトを強めようとしている。そのために「これまでは行政が土台づくりの手伝いをしてきたが、今後は民間が主役となるべきだ」と片山善博知事。

境港市と米子市を中心とする鳥取県西部は、対岸交流に向けて空と海の窓口となっている。境港を

中心とする中海圏域は、山陰で唯一FAZ(輸入促進地域)に指定され、韓国の釜山や中国・大連などを結ぶ定期貨物船が行き交う。

ソウル便が就航する米子空港は山陰ではただひとつ国際定期空路を持つ空の玄関口である。こうした空と海のアクセスの利用は順調に伸びている。

鳥取県では行政が中心となって幅広い分野で北東アジア交流を重ねてきた。中でも韓国・江原道や中国・吉林省とは息の長い友好交流の実績がある。これらは文化芸術やスポーツ、教育など草の根交流が中心であり、経済的な関心とは距離を置いてきた。

境港市と米子市を中心とする鳥取県西部は、対岸交流に向けて空と海の窓口となっている。境港を